

くろたに
黒谷ダム

くろたに あしもりがわじょうりゅう おかやましひがしやまのうち かわはら
黒谷ダムは、足守川上流の岡山市東山内・河原にあり、
はたけ おく
田んぼや畑へ送る水をためるだけでなく、大雨の時には
こうずい ふせ
余分な水をためて洪水を防ぐことができます。



くろたに れきし 黒谷池の歴史

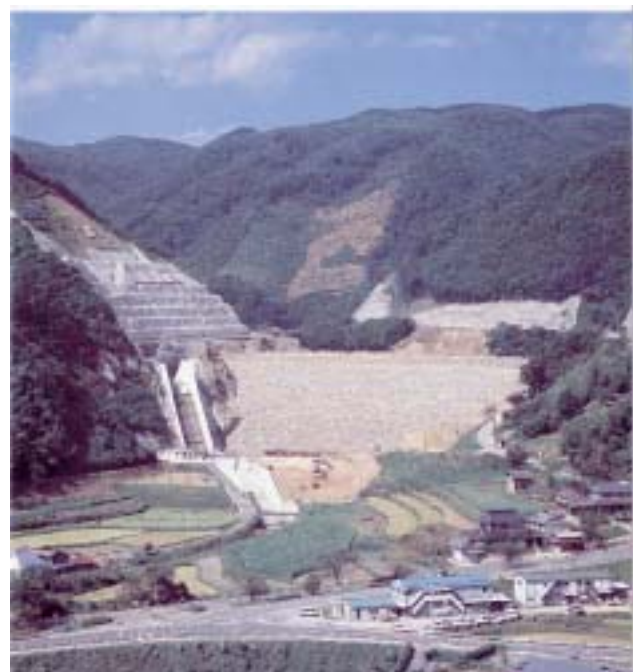
黒谷池は、足守川上流の岡山市東山内・河原に在り、昭和6年に造られた「ため池」です。昔の足守川は流れの速い川で、大雨がふれば川の水があふれ、田んぼや畑がつかったり道や水路がこわれたり、日照りが続けば川の水がなくなり、いねや野菜を作る水がなくて大変こまっていました。

ため池を造るきっかけとなった、「大正13年の大干ばつによる水争い」は、当時の新聞にも取りあげられたほど大きなできごとで、約2000人が水のうばいあいをしたようです。このような「水争い」が二度とおこらないように、ちいきの水がめとして、黒谷池が造られることになりました。

黒谷池の完成したころは、「関西一の大ため池」と言われるほど大きなため池で、572haの田んぼや畑へ水を送ることができました。その後、昭和14年にも大干ばつがありましたが、黒谷池の水があったため、田んぼのいねや畑の野菜などには、大きなひがいはなかったようです。



昔の黒谷池と現在の黒谷ダム



くろたに くろたに 黒谷池から黒谷ダムへ

黒谷池の完成から約半世紀が過ぎ、古くなった黒谷池を新しい黒谷ダムにつくりかえることになりました。新しい黒谷ダムは、290haの田んぼや畑へ水を送るだけでなく、大雨の時には、余分な水をためておき、すぐに大水が池から流れ出さないようにすることで、洪水を防ぐことができるようになりました。

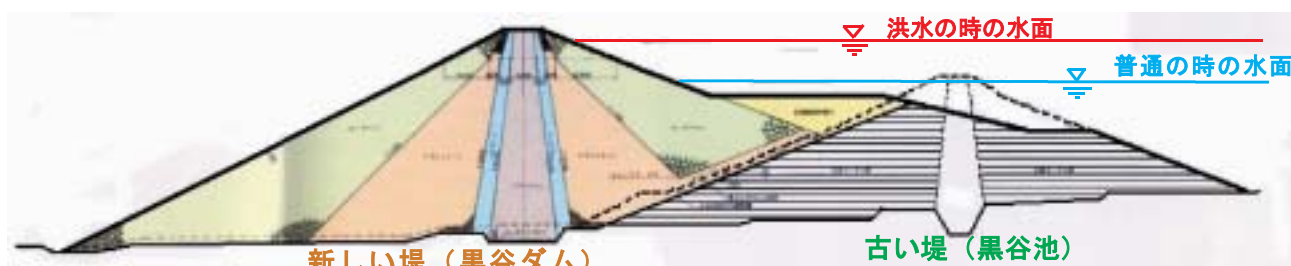


堤の下の石の日時計

黒谷ダムの堤は、高さ43.6m、長さ208.5mもありますが、土と石によりつくられています。堤をつくる工事は、10年もの長い年月がかかりましたが、黒谷池の堤の一部を利用して、

下流側にあたらしい堤をつくったため、工事中でも下流の田んぼや畑に水を送ることができました。新しい黒谷ダムにより、干ばつの時にも下流の田んぼや畑では水にこまることなく、大雨の時でも安心して生活ができるようになりました。

また、黒谷ダムには、ダム湖をながめることできる公園、ダム湖のまわりをさんぽできる道、堤の下には大きな石の日時計もあり、黒谷ダム周辺のすばらしい自然にふれることができます。



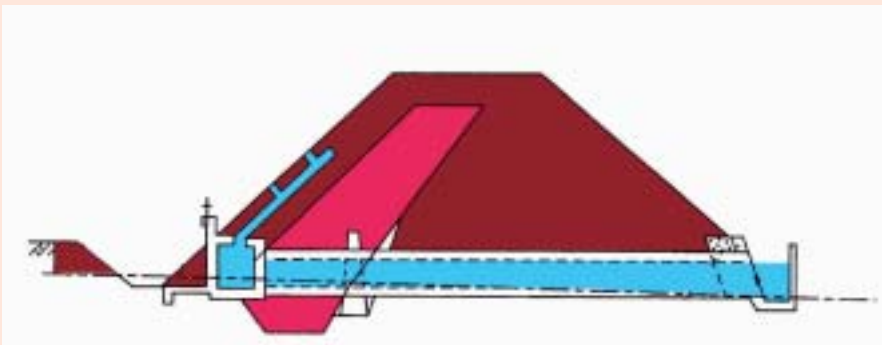
黒谷ダムの断面図（普通の時と洪水の時の水面の比較）
※黒谷ダムを造る時に黒谷池を利用したことがわかる

豆知識

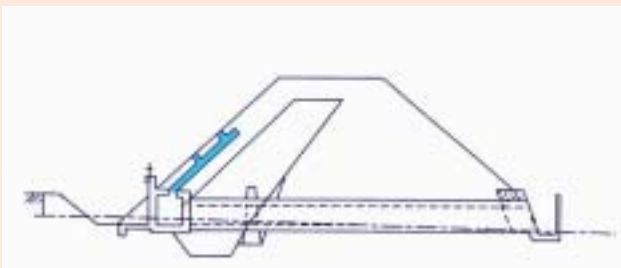


ため池のおはなし

ため池は、用水路を流れる水の出発地点のひとつです。
では、ため池にためた水をどうやって水路に水を流しているのでしょうか？
その仕組みについてちょっと見て見ましょう。



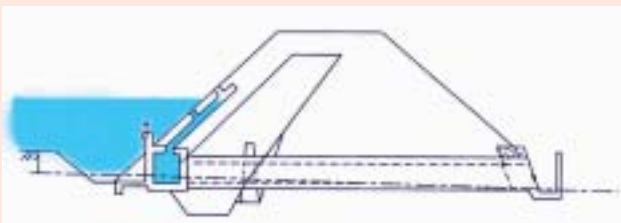
左の絵はため池を横から見たものです。
水色のところが水が流れるところです。



①斜樋（しゃひ）とよばれるところから水をとりま

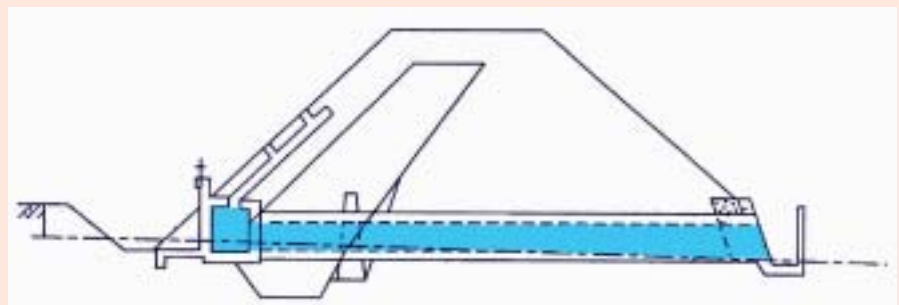


水が一杯いっぱいたまっている時は上の方から水をとりま



水が少ない時は下の方からも水が取れるようになっています。

②斜樋から入った水は底樋（そこひ）とよばれる所を



通って水路に流れて行きます。